

① キングとクイーン「マジックチェア」

実践事例 — お互いのよいところを見つけ、ことばで伝え合う

指導計画

自分がほめられることで自己を受け入れる気持ちが、友だちをほめることで相手を大切に思う気持ちが育まれる。ひとりひとりのミラクルパワーを引き出すマジックチェア。

| | |
|---------|---|
| めあて | <ul style="list-style-type: none"> ● 肯定的なメッセージをもらうことで自己受容することができる。 ● 友だちからのメッセージに感謝の気持ちを持ち、そのことを表現することができる。 |
| 指導のプロセス | <ol style="list-style-type: none"> 1 特別な(強調する)椅子を一脚用意し、それを中心にコの字型に子どもたちを着席させる。 2 子どもの中から、キングまたはクイーンを選定する。普段あまりほめられたり、取り上げられたりすることが少なく、自分自身に自信が持てない子どもなどを優先的に配慮して座らせる。 3 マジックチェアに選ばれた子を中央の椅子に着席させ、みんなのでその子の普段の様子を思い浮かべ、よいところを発見する。なかなか思い浮かばないという声があるときは、過去にさかのぼって考えてもよいことにする。(たとえば、保育園時代のことなどでもよい) 4 周囲の子どもたちは、その子のよいところが思い浮かんだら、イメージとして頭から体を通して足の先までその思いを持っていき、よく反芻してから頭に戻して発表するように指示する。相手が傷つく表現などは決してしないことを事前に約束しておく。(ふざける子がいないようにする) 5 相手に対して考えが思い浮かばない子どもには、発表を強制しない。また、椅子に座って聞く立場の子は、絶対に言われたことにコメントをしたり、返事を返したりしないように約束しておく。(友だちの言葉に耳を傾ける) 6 友だちがひと通り発表した後で、マジックチェアに選ばれた子が感想を言う。このワークは、1人約15~20分程度で行い、2~3人程度が目安となる。 7 このワークのふりかえりをする。言ってもらった子どもの立場と言う子どもの立場から考えて感想を伝え合う。(シェアリング) 8 やり方を理解したら、別の機会を設定して全員がマジックチェアに座れるように実施していく。(朝や帰りのショートタイムを利用してよい) |
| まとめ | <ul style="list-style-type: none"> ● 自尊感情を高め、相手に対しても感謝できる相互尊重へと発展させる。 |

授業の流れ

先生のミラクルパワー (心のウォーミングアップとして)

先生がミラクルパワーを発揮してみなさんを宇宙旅行に連れて行きます。何だか体がふんわり軽くなってきたような感じがします。少しずつ体が浮きはじめました。

机と椅子が片付けられた教室に、子どもたちは思い思いの姿勢で寝転がっています。静かに目を閉じて先生の言葉を聞いていると、子どもたちは次第に心が落ち着き、ゆったりとした気分になっていきます。

みなさんの体は教室の窓から外に出て、高く高く空へ上がっていきます。ふと気がつくと地球が見えます。なんてきれいなんだろう…。とっておだやかな気分になります。

まほうの椅子「マジックチェア」

今日は特別なことをやります。マジックチェアです。マジックはまほうの意味ですから、まほうの椅子ですね。

すっかり気持ちが落ち着いたところで、先生から「マジックチェア」の説明がありました。子どもたちは目を閉じて、先生がいったいどんな椅子を持ってくるのかわくわくしながら待っています。

わあ〜、何これ？

マジックチェアを持ってきます。3つ数えたら目をあけてください。

あわいたい！



みなさんはミラクルパワーをもっています。でもそれに気づいていないだけ。そのミラクルパワーは、自分で出そうと思う気持ちがいっぱいになると、自然に出てくるんです。



お友だちのいいところを思い出して、みなさんのミラクルパワーをお友だちに流してあげてください。手をあてているとやさしい気持ちが伝わって、とってもいい気持ちになります。

マジックチェアには、あまりほめられたことがない子をすわらせてあげるようになりました。誰をすわらせてあげるのがいかな？ 子どもたちが意見を出し合います。2人の子がすわるようになりました。

誰をすわらせてあげようか？

あまりほめられたことがないなって思う人？

初めておつかいに行ったのに
ほめてもらえなかった

だれがマジックチェアに
すわるといいかな

いつもお母さんに
おこられてはがり

「〇〇さんがいいと思います。がんばってやったのに、おこられてしまったからすわらせてあげたいです」

お友だちのいいところを思い出そう

子どもたちは目を閉じて、マジックチェアにすわった子のいいところを一生懸命に思い出しています。3年生の1学期はどうだったかな。2年生のときは…、1年生のときは…。

〇〇くんのいいところを思い出した人？
いいところを思い出したら、それを体の中で一周させてください。ミラクルパワーが少しずつわいてきます。

〇〇くんの肩に手をあてて
こんなところがすごいねと
〇〇くんのいいところを
伝えてあげてください。

自分の気持ちを伝えて

プールの検定で銀！
なんて、すごいね！

「図工のとき、困っているのを助けてくれてありがとう」

「意見をたくさん
言えてすごいね」

先生もこんなメッセージを送りました。「2学期に学級委員に立候補して、自分でいろいろやろうという気持ちがありましたね。その気持ちを大事にしてがんばってください」

みんなにいろいろ言ってもらってどんな気持ちかな？

マジックチェアにすわった感想は？
「とてもすわりごちがいい」

「こんなにみんなにやさしくしてもらえるなんて思わなかったです」

「みんな、わたしをほめてくれてありがとう」

子どもたちは、お互いのよいところを伝え合うことがとても大切なことを、理解できたようです。

子どもたちは順番に、マジックチェアにすわっている子の肩に手をのせて、自分の気持ちを伝えていきます。「泣いたときはげましてくれてありがとう」「いつも遊んでくれてうれしいです」マジックチェアにすわっている子どもはとてうれしそう。みんなもとてもやさしい気持ちになっていきました。

最後に、マジックチェアにすわった子が感想を言います。その後、まだすわっていない子どもたちから「もっとやりたい」との声。これからも時間をみつけて順番にやっていくことになりました。